

TECUM 数理教育セミナー

セミナー講演資料

研究機関誌『数理教育のロゴスとプラクシス 2021年5月号』

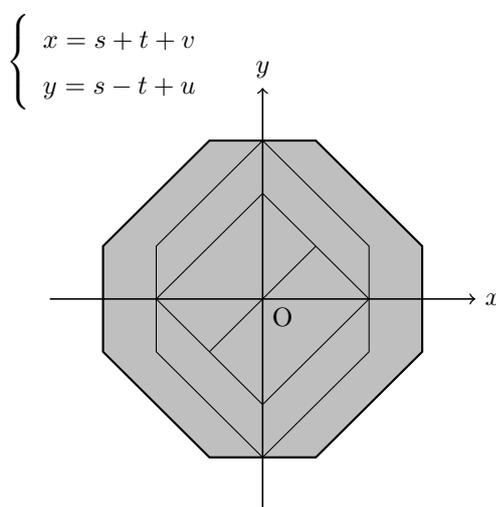
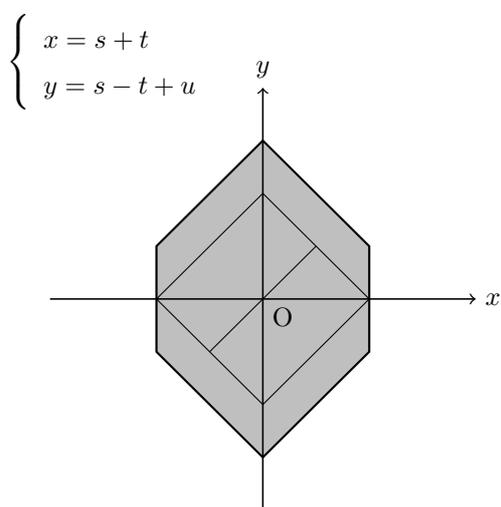
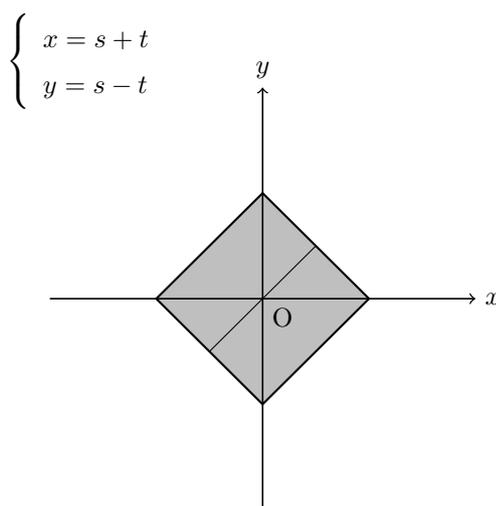
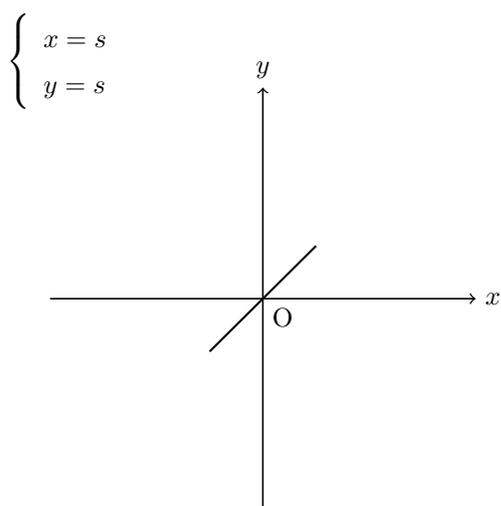


Image of $\begin{cases} x = f(s, t, u, v) \\ y = g(s, t, u, v) \end{cases}$ with $s, t, u, v \in [-1, 1]$.

TECUM 機関誌委員会編

2021年5月16日

2021年度第1回 定期研究会に寄せて

2021年5月16日
特定非営利活動法人 TECUM
理事長 長岡 亮介

NPO 法人 TECUM にとって、これから第4年度が始まりました。みなし法人として実質的な活動を開始した頃からの記憶を辿ると、この4年間半ほどの間に、いろいろなことがありました。

最大の事件は、昨年コロナ禍の大混乱です。しかし、これも TECUM の活動の今後の目標や活動形態を見直す良い機会となりました。活動の飛躍が計れなくなってしまったという受認しがたい負の側面も否定できませんが、すでに遠い過去のように見える一昨年、社員総会の総意を背景に、所轄庁の抵抗を乗り越えて、遠隔会議参加を許容するように定款変更を断行していたことは、昨年に関しては実に大きな好運で、それにより、他の学会等に先駆けて研究会の全国公開も実現しました。

「人間万事塞翁馬」という古来中国由来の有名な箴言があります。私達の浅知恵で見通せる将来の姿は実に貧困なものであるということです。この教訓をしつかりと胸において、**ときの不運に嘆くことなく、またたまたま巡り合った好運に傲ることなく**、つねに、未来のために**現在やるべきこと**（いまなら出来ること、いまずぐにやらないとならないこと）を見つめ直し、まだ出来ないことを大胆に延期するような、**つねに謙虚で着実な努力を日々、感謝の気持の中で真摯に継続**することが大切である、と思います。

こういうと、まるで生きる模範を未経験の若い人に垂れる、「社長頭訓」のよう（というよりも「校長訓示」のようでしょうか）大変恐縮ですが、こういう類と決定的に異なっているのは、自分を棚上げした「目下」に対する偉そうな話ではなく、自分自身に対する**自戒の気持**の表明であることです。

本来は静かで内側に閉じた自戒の世界を、しかしながら、信頼する同志の皆様と共有したいとしたいという切なる願いから、法人成立第4年度最初の研究会を記念するご挨拶代わりにここに書かせていただく次第です。

頑張りましょう！

目次

巻頭言：2021 年度第 1 回 定期研究会に寄せて（長岡 亮介）	1
第 I 部 連載論稿	5
《より良い》数学教育のために（長岡 亮介）	7
第 II 部 寄稿	19
気候変動の分析（平尾 淳一）	21
第 III 部 実践報告	29
高大接続で資質能力を伸ばす問題解決過程振り返りと協調学習の効果（白石 紳一）	31
第 IV 部 論稿	55
Riesz の表現定理 — 線型代数学からのアプローチ（木村 圭佑／矢部 千尋）	57
木村圭佑・矢部千尋共著論文：「Riesz の表現定理 — 線型代数学からのアプローチ」について	69
第 V 部 Q and A	71